



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 株式会社大阪ソーダ 上場取引所 東
 コード番号 4046 URL http://www.osaka-soda.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 寺田 健志
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 楫野 卓也 (TEL) 06-6110-1560
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	74,487	7.8	5,623	8.1	6,143	16.6	3,987	15.0
29年3月期第3四半期	69,090	△8.5	5,201	0.1	5,267	△2.9	3,467	5.1

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 6,574百万円(47.2%) 29年3月期第3四半期 4,466百万円(32.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	187.61	150.07
29年3月期第3四半期	164.56	136.53

※平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	116,787	58,848	50.4
29年3月期	101,503	52,725	51.9

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 58,848百万円 29年3月期 52,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	5.00	—	6.00	11.00
30年3月期	—	5.50	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	27.50	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、株式併合の影響を考慮しております。また、平成30年3月期の年間配当金合計は、単純合算できないため、「—」と表示しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	6.9	7,000	6.3	7,000	7.1	4,600	6.5	218.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い平成30年3月期の通期連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期3Q	23,400,193株	29年3月期	22,354,767株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

30年3月期3Q	1,846,291株	29年3月期	1,285,645株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年3月期3Q	21,253,052株	29年3月期3Q	21,069,954株
----------	-------------	----------	-------------

※平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び連結業績予想について)

当社は、平成29年6月29日開催の第162回定時株主総会において株式併合について承認可決され、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。なお、株式併合考慮前に換算した平成30年3月期の配当予想及び連結業績予想は以下のとおりとなります。

1. 平成30年3月期の配当予想
1株当たり配当金期末5円50銭
2. 平成30年3月期の連結業績予想
1株当たり当期純利益通期43円37銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景とする国内外の底堅い需要の下支えにより、緩やかな景気回復基調が続いているものの、米政権の政策運営や地政学リスクなど海外情勢は引き続き不透明な状況で推移しました。

このような環境のもと、当社グループは、基礎化学品では、効率的な生産体制の構築によりコスト競争力強化に努めるとともに、原燃料価格の変動に対応した価格是正に取り組んでまいりました。機能化学品では、合成ゴムおよび合成樹脂などの主力製品のシェア拡大に向け、海外を中心とした営業活動を推進する一方で、アクリルゴムなどの新製品の早期立ち上げに注力してまいりました。当社グループの第三の収益の柱と位置づけるヘルスケア関連事業につきましては、医薬品原薬・中間体事業では、特殊設備を活用した受託案件の獲得や新規事業の創出、医薬品精製材料では、東欧、中国に加えインド市場での新規顧客開拓を推進してまいりました。また、昨年12月に、株式会社資生堂よりクロマトグラフィー事業を譲り受け、医薬品精製材料事業の一貫生産体制を確立するとともに、販売網を拡充いたしました。住宅設備ほかでは、事業ポートフォリオの入れ替えを継続的に行い、収益力の強化に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、744億8千7百万円と前年同期比7.8%の増加となりました。利益面におきましては、営業利益は、56億2千3百万円と前年同期比8.1%の増加となり、5期連続の増益を達成いたしました。経常利益は、61億4千3百万円と前年同期比16.6%の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益も、39億8千7百万円と前年同期比15.0%の増加となりました。

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

基礎化学品では、クロール・アルカリは、需要が堅調に推移したことに加え、価格改定の実施により、売上高が増加しました。エピクロロヒドリンは、アジアでの需給環境の改善を受け海外市況が上昇し、販売数量も堅調に推移したため、売上高が増加しました。以上の結果、基礎化学品の売上高は328億6千5百万円と前年同期比8.7%の増加となりました。

機能化学品では、エピクロロヒドリンゴム関連は、国内需要の回復、およびアジアの自動車用途向け採用が拡大し、売上高が増加しました。また、アクリルゴムは採用実績が拡大し、売上高が増加しました。ダップ樹脂は、国内および欧州向け高感度UVインキ用途の需要拡大により輸出が堅調に推移したため、売上高が増加しました。アリアルエーテル類は、シランカップリング剤用途を中心に米国、中国向け輸出が堅調に推移したため、売上高が増加しました。医薬品原薬・中間体は、国内では、抗ウイルス薬、不眠症治療薬の中間体および薬用化粧品原料の拡販に加えて、糖尿病薬中間体などの新規案件が順調に推移しました。また、海外向け強心剤の中間体販売、ジェネリック原薬の輸入販売などの開始により、売上高が増加しました。医薬品精製材料は、欧州の顧客での在庫調整の影響があるものの、中国市場でのバイオ医薬品向けの販売が伸長し、国内でも分析用途および原薬精製用途向けが堅調に推移しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は293億4千9百万円と前年同期比9.4%の増加となりました。

住宅設備ほかでは、生活関連商品の販売が堅調に推移したため、売上高は122億7千1百万円と前年同期比2.1%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて、15.7%増加し679億7千9百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が24億7千4百万円増加、電子記録債権が23億7千4百万円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて、14.1%増加し488億7百万円となりました。これは、主として投資有価証券が37億6千3百万円増加したことによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、15.1%増加し1,167億8千7百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて、3.3%増加し324億3千4百万円となりました。これは、主として支払手形及び買掛金が24億1千4百万円増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて、46.7%増加し255億4百万円となりました。これは、主として新株予約権付社債が76億7百万円増加したことによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて、18.8%増加し579億3千9百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて、11.6%増加し588億4千8百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月9日発表の業績予想に変更はありません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,033	13,275
受取手形及び売掛金	25,397	27,872
電子記録債権	2,497	4,872
有価証券	9,499	10,499
商品及び製品	5,743	6,489
仕掛品	1,411	1,747
原材料及び貯蔵品	1,667	1,797
その他	1,491	1,428
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	58,739	67,979
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	11,339	10,106
その他(純額)	10,216	13,343
有形固定資産合計	21,555	23,450
無形固定資産		
のれん	769	1,206
その他	437	523
無形固定資産合計	1,207	1,729
投資その他の資産		
投資有価証券	18,927	22,690
その他	1,641	945
貸倒引当金	△568	△8
投資その他の資産合計	20,001	23,627
固定資産合計	42,764	48,807
資産合計	101,503	116,787

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,339	15,754
短期借入金	8,880	8,880
1年内返済予定の長期借入金	2,160	1,280
未払法人税等	1,311	710
賞与引当金	712	372
その他	4,987	5,437
流動負債合計	31,390	32,434
固定負債		
新株予約権付社債	9,999	17,606
長期借入金	800	—
役員退職慰労引当金	567	592
退職給付に係る負債	2,927	2,988
その他	3,093	4,317
固定負債合計	17,387	25,504
負債合計	48,778	57,939
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,882	12,079
資本剰余金	9,399	10,596
利益剰余金	27,964	30,726
自己株式	△1,670	△3,290
株主資本合計	46,576	50,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,481	9,009
繰延ヘッジ損益	△13	5
為替換算調整勘定	24	30
退職給付に係る調整累計額	△342	△309
その他の包括利益累計額合計	6,149	8,736
純資産合計	52,725	58,848
負債純資産合計	101,503	116,787

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	69,090	74,487
売上原価	55,179	59,958
売上総利益	13,910	14,528
販売費及び一般管理費	8,709	8,905
営業利益	5,201	5,623
営業外収益		
受取利息	21	8
受取配当金	318	354
為替差益	—	277
その他	52	46
営業外収益合計	393	687
営業外費用		
支払利息	48	98
社債発行費	—	32
為替差損	259	—
その他	20	35
営業外費用合計	328	167
経常利益	5,267	6,143
特別利益		
固定資産売却益	—	106
特別利益合計	—	106
特別損失		
固定資産除却損	410	448
特別損失合計	410	448
税金等調整前四半期純利益	4,856	5,801
法人税、住民税及び事業税	1,385	1,411
法人税等調整額	3	402
法人税等合計	1,389	1,813
四半期純利益	3,467	3,987
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,467	3,987

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	3,467	3,987
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	917	2,528
繰延ヘッジ損益	89	19
為替換算調整勘定	△52	6
退職給付に係る調整額	44	33
その他の包括利益合計	999	2,587
四半期包括利益	4,466	6,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,466	6,574
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	基礎化学品	機能化学品	住宅設備ほか	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
売上高						
外部顧客への売上高	30,242	26,828	12,019	69,090	—	69,090
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	15	1,423	1,451	△1,451	—
計	30,254	26,844	13,443	70,541	△1,451	69,090
セグメント利益	1,063	4,686	143	5,893	△691	5,201

(注) 1 セグメント利益の調整額△691百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎研究開発等および管理部門の一部に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	基礎化学品	機能化学品	住宅設備ほか	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
売上高						
外部顧客への売上高	32,865	29,349	12,271	74,487	—	74,487
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7	13	849	869	△869	—
計	32,873	29,362	13,120	75,356	△869	74,487
セグメント利益	1,864	4,403	77	6,344	△721	5,623

(注) 1 セグメント利益の調整額△721百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎研究開発等および管理部門の一部に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。